
1 0 5

醤油

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

105

【Nコード】

N8840P

【作者名】

醤油

【あらすじ】

ここで研究しているのは、兵器の開発

政府非公認であり、大変危険な組織とされていた。

しかし、そんなことは無く、国のために役に立ちたいという者が集まっていた

平気とは主に、『ロボット』。

そのロボットに、感情をつける事に成功したのだ
その、感情をもったロボットの、たった一つの恋の話

ここで研究しているのは、兵器の開発

政府非公認であり、大変危険な組織とされていた。

しかし、そんなことは無く、国のために役に立ちたいという者が集まっていた

兵器とは主に、『ロボット』。

ロボットには、感情が無い、それほど悲しいものはあるのだろうか、

実験に実験を重ね、ようやくロボットに感情を作ること成功した

しかし、一体のロボットは感情を持たなかった

笑いもせず泣きもしない。

しかし、ある日、彼は仕事に行き詰っていた女性研究員に花を渡した
「ダ、イジヨウブ？ガバッテ・・・」

いつの間にか、彼は彼女に恋をしていたのだ。

しかし、政府非公認である為に、危険視され政府に滅ぼされる事になったしまった

ある日、研究所は一瞬で血の海になった。

勿論、皆殺しだ

偶然メンテナンス中だった。彼、105号以外は、

彼は惨事に気づき、コードを引き千切り彼女の亡骸に駆け寄った

あの日の花を持って

「ネエ、起キテ・・・オハナ・・・モテキタ」

片言のか細い声が漏れていった

「ネエ・・・ネ・・・エ」

声が途切れた。

彼女を思う、涙で濡れ、

彼の永遠が終わり、永遠が始まった

（後書き）

はい、所々意味が分からないところがありますが
ご了承下さい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8840p/>

105

2011年1月9日00時07分発行